

LSIサイズ半分以下

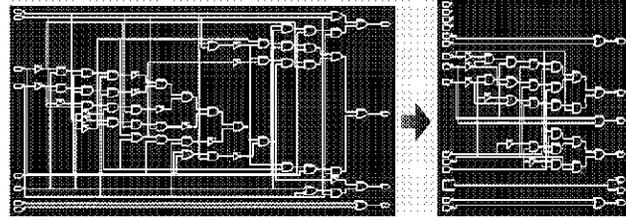
大規模集積回路（LSI）設計のマセマテック（東京、渡雅男社長、03・332433・0805）は無線通信規格向けに主要部分の回路の大きさや、消費電力を従来の半分以下に縮小する技術を開発した。処理速度も最大二倍以上に高められる。携帯電話に採用した場合、機種にもよるが地上デジタル放送の視聴可能時間がおおむね現在の二―三時間程度から、二倍程度に延びるといふ。

新技術は「Spinor（スピノール）」。LSIの回路の設計手法を抜本的に見直した。全体を一度に微細化するのではなく、回路の設計自体に変更を加え必要な部分だけを細かくする。微

マセマテックが縮小技術

従来の回路

新手法の回路



処理速度2倍超 家電向け受注狙う

受注した。大手中心に国内外のメーカーに採用を働きかけ、初年度は六社との契約を目指す。各社が求める用途に応じたLSIを新手法で設計し、初期の契約金と、設計したLSIの出荷量に連動したロイヤルティ収入を得る。

マセマテックは二〇〇〇年四月の創業。渡社長は日立製作所やソニーで半導体の技術開発のほかデジタルオーディオ機器の開発などに携わってきた。

家庭内でケーブルを通さずにDVDやデジタルカメラ、パソコンなどからデータを送受信する次世代高速無線通信「UWB」に対応した家電関連の受注に力を入れる。携帯電話向けの開発なども進める。映像配信や地上デジタル放送の視聴などに必要な、処理速度が速

細化と同時に処理を速くする。回路の接続部分の電流漏れなどで、消費電力の削減が進まないといった課題も浮上していた。このほど国内の大手半導体メーカーから業務を進めてきた。しかし物理的に小さくする手法は技術的な限界に達しつつあるとみている。回路の接続部分の電流漏れなどで、消費電力の削減が進まないといった課題も浮上していた。